

(別紙2 様式)

[普及事項]

新技術名：ニホンナシ「あきづき」の花芽確保には不定芽由来の新梢も利用できる（平成18～23年）

研究機関名 果樹試験場天王分場班
担当者 長澤正士

[要約] ニホンナシ「あきづき」の不定芽由来の新梢を新梢伸長停止期に誘引すると、腋花芽分化率が向上する。この腋花芽に結実した果実の肥大は、予備枝由来の長果枝や短果枝に着果した果実と同等である。

[普及対象範囲] 県内の砂質土壌のニホンナシ産地（潟上、秋田、八峰、能代の一部など）

[ねらい]

ニホンナシ「あきづき」の短果枝には葉のない果そうが多く、また結実させると翌年短果枝が着生しないことが多いので、長果枝の腋花芽を積極的に利用する必要がある。しかし、樹勢が強いため、気象条件や樹の部位によっては、予備枝を利用するだけでは腋花芽が十分に確保出来ない場合がある。そこで本品種のもつ新梢の発生数が多い特性に着目し、予備枝を補完する技術として主枝から発出した不定芽新梢を誘引して腋花芽着生を促す。

[技術の内容・特徴]

- 1 ニホンナシ「あきづき」の主枝から発生した不定芽由来の新梢を新梢伸長停止期に誘引すると、腋花芽分化率が向上する。棚面との角度は、45度と0度で大きな差はない（表1、2）。
- 2 誘引した新梢は基部径が細くなっているため、翌年、棚に結束しやすくなるとともに、腋花芽分化率が低い新梢は、剪定時に予備枝として利用しやすくなる（表1、2）。
- 3 不定芽由来の長果枝に着果させた果実の肥大は、予備枝由来の長果枝や短果枝に着果した果実と同等である（表3）。

[成果の活用上の留意点]

本成果は、砂丘未熟土に植栽された7～8年生の「あきづき」/マメナシ台を供試して得られた結果であり、黒ボク土壌など肥沃な土壌では十分な腋花芽分化が得られない場合がある。

[具体的なデータ等]

表1 ニホンナシ「あきづき」の新梢の誘引時期と棚面との誘引角度が新梢の発育と腋花芽分化率に及ぼす影響^z (2008年)

誘引時期	棚面との角度	調査新梢数(本)	誘引時		落葉期		新梢の2次伸長率(%)	平均腋芽数(個)	腋花芽分化率(%)	腋花芽分化率50%以上の新梢の割合(%)
			新梢長(cm)	基部径(mm)	新梢長(cm)	基部径(mm)				
7月11~14日	0度	33	102	9.1	113	11.8	3	27.4	20.5	12.1
7月11~14日	45度	14	102	8.6	112	12.3	21	26.9	30.3	21.4
7月30日	0度	37	119	11.2	127	14.3	16	30.1	6.2	0.0
7月30日	45度	12	106	11.0	118	14.2	33	28.4	5.0	0.0

^z供試樹は「あきづき」/マメナシ7年生。新梢伸長停止期は7月10日頃。

表2 ニホンナシ「あきづき」の新梢の誘引時期と棚面との誘引角度が新梢の発育と腋花芽分化率に及ぼす影響^z (2009年)

誘引時期	棚面との角度	調査新梢数(本)	誘引時 ^y		落葉期		新梢の2次伸長率(%)	平均腋芽数(個)	腋花芽分化率(%)	腋花芽分化率50%以上の新梢の割合(%)
			新梢長(cm)	基部径(mm)	新梢長(cm)	基部径(mm)				
7月17日	0度	25	106	10.7	116	15.9	4	29.2	33.9	37.5
7月17日	45度	25	117	11.6	130	18.6	12	32.8	38.4	37.5
7月31日	45度	25	123	11.1	130	19.0	20	32.0	27.6	20.0
無処理	-	25	118	11.7	150	22.9	48	37.7	11.3	0.0

^z供試樹は「あきづき」/マメナシ8年生。新梢伸長停止期は7月17日頃。

^y無処理区は、7月17日に調査。

表3 由来の異なる長果枝及び短果枝に着果した果実の平均果重の比較 (2011年)

供試樹No	不定芽新梢由来の長果枝		予備枝由来の長果枝		短果枝	
	調査果数	平均果重(g)	調査果数	平均果重(g)	調査果数	平均果重(g)
1	48	457	39	427	17	386
2	39	419	24	401	32	370
3	34	441	51	454	41	433
平均		439		427		396

[発表文献等]